

## 二セコ町の自治創生の取組状況

## 1. 基本方針

- 「地方創生」は、地域の自立につながる施策に自主的かつ主体的に取り組むことを特に重要視しており、客観的データに基づいて実状分析や将来予測を行った上で、人口減少社会の克服に直接的に取り組む施策を集中的に実施し、政策効果を客観的な指標（数値目標）及びPDCAサイクルにより検証していくアプローチ。
- 二セコ町は、「二セコ町まちづくり基本条例」に基づき、「住むことが誇りに思えるまち」を目指し、町民の「自治」を基本としたまちづくりを実践してきた。「自治創生」においても、同条例に基づくまちづくりの実践を基本として、多様なアプローチをかけて町民と協働し、町民意見の収集・反映について特に丁寧に進めていく。
- 具体的には、二セコ町自治創生協議会への町民委員（公募）の参画に限らず、まちづくり町民講座や意見交換会（町民参加型の場）、アンケート・ヒアリング調査などの機会を積極的に設ける。併せて、二セコ町議会の議論をいただく。

## 2. 取組状況

## (1) 二セコ町自治創生推進本部

自治創生に関する施策を全庁的に推進するため、町長（本部長）、副町長（副本部長）、教育長、課長ほかをもって組織する「二セコ町自治創生推進本部」を平成 27 年 3 月に設置。平成 27 年 10 月末までに計 6 回の会議を開催。二セコ町総合戦略の方向性や、二セコ町自治創生協議会やまちづくり町民講座の企画内容などを検討。

## (2) 町民などとの意見交換【詳細別添】

## ① 政策案件等説明会

二セコ町議会議員に取組状況・今後の方針などを説明し、意見交換を実施。

期 日： 平成 27 年 6 月 22 日（月）11:00～11:15

場 所： 二セコ町役場 議員控室

対応者： 自治創生室長ほか

## ② まちづくり町民講座「二セコ町の自治創生の取組」

二セコ町が人口減少社会を克服し、将来にわたって豊かで魅力ある町をつくるための課題や取組の方向性について意見交換を実施。

期 日： 平成 27 年 6 月 30 日（火）18:30～20:00

場 所： ニセコ町民センター

出席者： 57名（うち役場職員29名、一般28名）

③ 総務常任委員会所管事務調査

ニセコ町議会議員に取組状況・今後の方針などを説明し、意見交換を実施。

期 日： 平成27年7月22日（水）11:15～11:45

場 所： ニセコ町役場 議員控室

対応者： 自治創生室長ほか

④ ニセコ町幼児センターPTA役員との意見交換会

女性は、結婚・出産・子育て環境はもちろんのこと、地域や生活に密着した観点など、男性とは異なった鋭くしなやかな目線を持っており、ニセコ町に係る新たな気づきが見出されることが大いに期待できることに着目して、子育て世代とニセコ町の魅力などについて意見交換を実施。

期 日： 平成27年8月27日（木）19:15～19:45

場 所： ニセコ町幼児センター

出席者： 15名

⑤ 地方版総合戦略の策定に向けた意見交換会

後志総合振興局主催により、特に「労」「言」との意見交換の補完を趣旨として、連合北海道、北海道新聞社及び読売新聞と後志市町村との意見交換を実施。

期 日： 平成27年8月31日（月）13:30～15:50

場 所： 後志合同庁舎

対応者： 自治創生室長ほか

⑥ 政策案件等説明会

ニセコ町議会議員に取組状況・今後の方針などを説明し、意見交換を実施。

期 日： 平成27年9月16日（水）13:00～14:00

場 所： ニセコ町役場 議員控室

対応者： 自治創生室長ほか

⑦ まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」

ニセコ町の統計情報や町民アンケートなどの「客観的データ」を実際に読み解き、地域の魅力や強み・弱みを捉えて地方版総合戦略づくりに生かす。

期 日： 平成27年9月24日（木）18:30～20:00

場 所： ニセコ町民センター

出席者： 40名（うち役場職員13名、一般27名）

#### ⑧ まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」

町内在住の外国人を対象に、自治創生が目指すものやニセコ町に住むことの魅力と課題について解説・意見交換を行うことを介して、ニセコの豊かな地域性の象徴である外国人の目線を積極的に取り入れ、ニセコ町らしい地方版総合戦略づくりに生かす。

期 日： 平成 27 年 10 月 2 日（金）19:00～21:00

場 所： ニセコ町民センター

出席者： 61 名（うち町内在住外国人 21 名、役場職員 22 名、一般 18 名）

#### ⑨ まちづくり町民講座「里山資本主義による環境創造都市ニセコの実現」

「里山資本主義」の著者の藻谷浩介氏を講師に迎え、講演及びワークショップを介して、里山資本主義の実践によってニセコ町で実現できる将来像について、町民が自ら考え、実践する契機にする。

期 日： 平成 27 年 10 月 13 日（火）18:00～20:00

場 所： ニセコ町民センター

講 師： 藻谷 浩介氏（日本総合研究所 主席研究員）

出席者： 80 名（うち役場職員 21 名、一般 59 名）

#### ⑩ニセコ町自治創生女子会

女性は、結婚・出産・子育て環境はもちろんのこと、地域や生活に密着した観点など、男性とは異なった鋭くしなやかな目線を持っており、ニセコ町に係る新たな気づきが見出されることが大いに期待できることに着目して、自治創生に関して広く論点を抽出する。

期 日： 平成 27 年 10 月 22 日（木）18:30～20:00

場 所： ニセコ町民センター

出席者： 20 名（うち役場職員 7 名、一般 13 名）

### （2）広報ニセコへの掲載

広報ニセコ 8 月号に、地方創生の背景・経緯、ニセコ町の取組状況・方針などをまとめた特集記事「ニセコ町『自治創生』の実現に向けて」を掲載。

### （3）自治創生ホームページ

ニセコ町ホームページ内に、これまでの自治創生関係の資料（委託業務に係るプロポーザル審査過程、まちづくり町民講座やニセコ町自治創生協議会の資料・議事概要、広報など）を一元的に集約。

※「ニセコ町トップ」→「まちづくり」→「さまざまな取り組み」→「ニセコ町の自治創生に向けて」

#### (4) 新聞記事

ニセコ町の自治創生に係る公開企画などについて北海道新聞社倶知安支局に情報提供しており、新聞記事を介した情報発信により、広く目に留まる工夫に努めている。

「ひと ニセコ発 町自治創生室長」(平成 27 年 4 月 16 日朝刊)

「人口減どう克服 地方創生で町民講座」(平成 27 年 7 月 9 日朝刊)

「ニセコ町の人口減防げ 自治創生協議会が初会合」(平成 27 年 8 月 15 日朝刊)

「ニセコの魅力高めるには まちづくり 外国人提言」(平成 27 年 10 月 6 日朝刊)

「地方創生 女性の視点で 「女子会」で 20 人討論」(平成 27 年 10 月 24 日朝刊)

## まちづくり町民講座等の意見交換状況

## ＜本資料の位置づけ＞

- ✓ これまでに町民、議会などから得られた意見を、まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成26年12月閣議決定）（以下「国総合戦略」という。）における基本目標に沿って整理し、「まちづくり町民講座等の意見交換状況」として示す。
- ✓ 今後、「ニセコ町人口ビジョン」及び「ニセコ町総合戦略」の検討にあたって念頭に置く必要がある。
- ✓ なお、第1回ニセコ町自治創生協議会参考資料3「ニセコ町自治創生推進本部の検討状況」（役場のアイデア集（たたき台））以外の意見を網羅している。

## ※国総合戦略（平成26年12月閣議決定）における基本目標

- ① 地方における安定した雇用を創出する
- ② 地方への新しいひとの流れをつくる
- ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

## 全般的なコメント

### <自治創生の前提条件>

- 総合戦略はニセコ町のこれからを大きく決定させる計画となる。策定段階にあつては、町民に広く周知・説明するよう進めていただきたい。(H27.6.22 ニセコ町議会政策案件等説明会)
- 若者の流入の促進、仕事(雇用)の創出とも取り組み、若者の交流人口を増やすのは確かに大事。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 6月定例議会で、これまでの地域づくりと今回の地方創生がどう異なるかという一般質問があった。地域の自立を目指すことこそ地方創生の特徴ではないかと考えている。移住については、ニセコ町の魅力に惹かれても、実際に住んでみると暮らしにくい面が見えてくる。今回の地方創生は、まさに地方のこれからについて議論する良い機会ではないか。(H27.6.30 第144回まちづくり町民講座「ニセコ町の自治創生の取組」)
- 国は若年女性(増田レポート)だけでなく高齢者(日本版 CCRC)も示しているが、人口の地域的・年齢的なバランスの是正を考えているのではないか。その中で、各自治体でどのような将来像を目指すかは、地域特性を踏まえて考えるべきもの。(H27.9.16 ニセコ町議会政策案件等説明会)
- 石破大臣は、人口増加や経済成長といったこれまでの前提も、公共事業と企業誘致により多くの雇用・所得を得るというビジネスモデルも成り立たないと言い切っている。そのような中、持続可能な社会をいかに構築するかが重要になってくる。(H27.9.16 ニセコ町議会政策案件等説明会)
- 雇用や人口面で倶知安町・ニセコ町は成功している方だ。これまでの経過や成功要因の把握が大事だ。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)

### <人口推計>

- 人口ビジョン策定は難しいと予想。人口見通しの分析・考察には町内産業の流れもポイントになるため、配慮してもらいたい。(H27.6.22 ニセコ町議会政策案件等説明会)
- 社人研推計ではニセコ町の将来人口は3,000人台まで落ち込むとされているが、ニセコ町の実態に即した人口推計を示すべき。アンヌプリ地区や東山地区等、雇用増や民営住宅・社宅の建設の具体的な動きがある。これらを積み上げて実態に即した人口推計を行えば、将来人口は5,000人~6,000人になるのではないか。(H27.8.31 第5回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 住宅建設の適地かという観点では、倶知安町は新幹線の駅が作られるため最優良であるのに対して、ニセコ町は人口が増えないと見通されているようだ。ニセコ町の実態即していないこうした人口推計は、せっかく町内への住宅建設を考えてくれている業者を誤解させてしまい、投資に二の足を踏ませてしまうおそれもある。(H27.8.31 第5回ニセコ町自治創生推進本部会議)

### <自治創生の課題>

- ニセコが持っている魅力を実現するためには、あるものをいかに最大限活用していくかを考えていくべき。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 町内に住む方が自治創生に対する意識がないのが課題なのではないか。将来困るのは自分達だという当事者意識を住民が持っていない。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 住民には人口減少に対する危機感がないのではないかと。委員として集まっている人だけが危機感を持っている状態になっていないか。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 後志の各地を転々としてきているが、どこも同じような課題を抱えている。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 人口減少自体にどう地域が生き抜くか、人口減少による活動の縮小、経済の縮小、サービスの縮小が予想される中で、外からの需要をいかに取り込むか、外に逃げている需要をいかにこっちに向けるかといった観点が重要になると感じる。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)

### <まちの賑わい・観光スポット・ニセコらしさ>

- 自分も、道の駅ビュープラザとミルク工房くらいしかお客様を連れていくスポットがない。中央倉庫群の再活用にも期待している。子どもや若者に限らず、高齢者が遊ぶところも少ないと感じている。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 名物は羊蹄山麓にはあるものの、ニセコ町に限ると意外と無い。この点は、第6期ニセコ町社会教育中期計画の検討でも指摘されている。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 有島記念館は、海外の観光客を受け入れることもあるため、英語表記は確かに必要。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- まちづくり基本条例に包含されているかも知れないが、有島地区に由来する「相互扶助」の考えも重要な地域資源ではないか。(H27.8.31 第5回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 町民共通のこだわりやオリジナリティを見出すことが重要。当事者意識にもつながる。(H27.8.31 第5回ニセコ町自治創生推進本部会議)

### <外国人町民の意見>

- (町民講座などを活用して)外国人のニーズを吸い上げることが重要ではないか。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 10年間ニセコエリアに住んでいるが、7年間は近隣の町に住んでいた。行政がこうやって我々外国人を集めて、意見を求め、話を聞くという機会を作ってくれたことは今まで一度もなかった。まずはそのことにお礼を言いたい。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- 入国管理局にはいまだに外国人は「AL I E N」と書かれている。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)

## 基本目標① 地方における安定した雇用を創出する

### <全般>

- 大前提として生活に不安があるというのは誰でも困るはず。男性や家族のいる人にとっては、通年雇用が大事と考えるだろうし、一方で四季を生かしたニセコスタイルとして、プライベートや遊びを充実させつつ働きたいと言う人が多いのも事実で、どちらを考えるか偏るのは当然のこと。年間のスキームを的確に把握し、ビジネススキームに生かすことができればいいのではないか。バランスが大事。また、起業支援等をうまく提供していなければ、今後の転入が続かないのでは。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- ニセコは夏と冬で世界が大きく違う中で、夏と冬もしくは四季での雇用状態の違いを明らかにする必要があるのではないか。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 失業率の変動等についてP.54の「本町の完全失業者数」について、失業率が高まる要因として考えられるのは、大きなスキー場の閉鎖や、宿泊施設の経営者の変更に伴い従業員が大量に解雇されたこと等が影響しているのではないか。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 「女性の産業別従事者数」について、医療・福祉職員の数が多い要因は、ニセコ町内の老人施設2箇所勤務している人のほか、近隣の町村にある病院や施設に通勤している人が多いからではないか。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)

### <現状・課題>

- 店舗併用住宅の人に、店舗部分を貸してほしいという呼びかけはしているが、「愛着があるから店は使ってほしくない」、「水周りが住居側にしかないし無理」等賃貸に踏み切れないのが現状。しかし、これらを使わせてもらえれば、町にも活気が出ると思うし、店を出したい若者にも後押しになるので今後の課題だと思う。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 通年雇用が少ない現状は、町内には、通年ではなくポイントで働き手が欲しい人が多いことを示している。ユースホステルがあれば、若者の働き手を柔軟に確保できるし、ユースホステルで働く人の雇用も創出にもつながる。(H27.6.30 第144回まちづくり町民講座「ニセコ町の自治創生の取組」)
- オーストラリアでの海外経験では、ホステルに仕事募集の張り紙がよくしてあり、自分が泊まったところでそのまま居続けるような場所をよく目にしたが、ニセコにはそういった機会がないと感じており、宿泊機能を強化していくことも必要なのではないか。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 働き手が雇用を選び好みしなければ、雇用自体は結構ある。人手不足に悩んでハローワークで働き手を探している農家は多く見られる。仕事の経験を踏まえて、縁をどうつないでいくかが課題。農業の現場はいくらでもあるので、子どもに体験させて教育に生か

すのも面白い。(H27. 6. 30 第 144 回まちづくり町民講座「ニセコ町の自治創生の取組」)

- 通年雇用についての指摘があるが、仕事は年がら年中あるもので、若い人が減っている  
ので、ポイントで人が見つからない現状もある。(H27. 8. 4 第 1 回ニセコ町自治創生協議会)

#### <収入安定・雇用環境>

- ニセコ町自治創生協議会では、季節雇用を肯定的にとらえている意見がある。季節雇用  
は不安定で、若い時は良いが働けなくなったときの保障が何もないことや高齢になって  
から年金が十分にもらえないなど問題になるのではないか。(H27. 9. 16 政策案件等説明会)
- 町の将来としては、住む人の収入を安定させ、自立して暮らせる施策が必要。(H27. 9. 16 政  
策案件等説明会)
- 個人事業主・家族経営が多いニセコ町の特徴を踏まえると、家族従業者を正規雇用とみ  
なして考えるのは自然であり、正規雇用が少なく、季節雇用(非正規雇用)が非常に多  
いとは一概に言えないのではないか。(H27. 9. 24 第 146 回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコ  
の姿」)
- ニセコ町においては、正規雇用の割合の引き上げを目指すべき一方、個人事業者が多い  
のも「ニセコらしい仕事」と言えるのではないか。(H27. 9. 24 第 146 回まちづくり町民講座「データ  
で読み解くニセコの姿」)
- 30 代の有配偶率が低いのは、雇用の観点に関係するのではないかと感じる。(H27. 8. 4 第 1 回  
ニセコ町自治創生協議会)

#### <ライフスタイル>

- ニセコ町の地域課題について、通年雇用について、季節によって労働環境が違うため、  
同じヒトがひとつの職場に居続ける必要はなく、夏と冬で雇用が確保できていればいい  
のではないか。(それがニセコのスタイルなのかもしれない。)一方で春と秋の雇用も創  
出できないかと考えているが、テレワークについては良い発想だと感じており、これを  
積極的に進めてもいいのではないか。(H27. 8. 4 第 1 回ニセコ町自治創生協議会)
- 非正規雇用であっても 2 人でサラリーマン 1 人分程度稼ぐライフスタイルもある。ヨーロ  
ッパではこういうライフスタイルもある。(H27. 9. 24 第 146 回まちづくり町民講座「データで読み解く  
ニセコの姿」)
- 夏と冬の雇用の違いは地域特性として捉えている。閑散期・繁忙期の違いがはっきりし  
ているものの、それが好きなスタッフも確かにおり、通年雇用が好きな人は東京や札幌  
にいく傾向にある。(H27. 8. 4 第 1 回ニセコ町自治創生協議会)
- 小さい子どもがいる親の声として、年間を通してではなくちょっとだけ働きたいとい  
うものもある。(H27. 8. 4 第 1 回ニセコ町自治創生協議会)

#### <起業支援>

- ニセコ町は起業者が多い。都市部からの移住を目指すためにビジネスマッチング等起業

者をもっとサポートできるシステムをつくってあげれば良いと思う。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)

- 東京一極集中の是正を目指すのは分かるが、安定する保証がないと、東京から地方に出て起業するのはなかなか難しいのではないかと。(H27.9.16 ニセコ町議会政策案件等説明会)
- 最近、比羅夫地区は、他国のビジネスが行われており、社交界的な機能を果たしている様子。そこでのビジネスマッチングは、ニセコでの起業の観点から面白いのではないかと。(H27.8.31 第5回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- ニセコ町の環境に惹かれて移住した。ニセコ町に住みたいという友人がいるが、通年で働く場所がなくて困っている。起業向けの場所作りと金融支援のタグで、インキュベーションマネージャーのような仕組みを作ってはどうか。(H27.6.30 第144回まちづくり町民講座「ニセコ町の自治創生の取組」)
- 仕事については、必ずしも観光業に限らず、今はニセコ町にない仕事も含めて、柔軟な発想で考えていくべき。(H27.6.30 第144回まちづくり町民講座「ニセコ町の自治創生の取組」)
- 「民間事業者ができること」は町がすべきことではない。「スタッフ等の宿がない」問題はビジネスチャンスであり、一般企業にやってもらわなければならない。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- 非正規雇用から新規就農そして起業への道の創出。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 農業をしたいという人もいるが、それに対する窓口が十分にあるとは言えない、さらに拡充してもいいのではないかと。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 自分の会社では、原野を購入・開墾・野菜を作り、有機野菜を首都圏に直送、この中で就農希望者を巻き込み、将来自立できるような形をとっている。(5年かかって、やっと自立手前までできた)(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- ワイン用のぶどうも作っているが、若いカップルの小売事業立ち上げを支援した結果、彼らは独立に成功している。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 小規模でも、頑張る事業者が内発的に生まれるのは良いこと。商工会と連携してテコ入れすべき。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 小規模事業者が多いことは、ニセコ町のメリットだと前向きに捉えている。小規模事業者が頑張るのが、ニセコ町らしくて理想的なのではないか。道の駅ビュープラザも最初は5人でスタートした。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)

#### <ビジネス基盤・環境整備等による企業支援>

- ニセコに来る観光客が増えて混み合ってきている。行政は、一事業者では負担しきれない資金が必要となる駐車場の整備、ゲレンデの拡張やリフトの更新等のインフラの整備を担うべき。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- 観光に付随する別の職種があれば良い。町は企業誘致をしてほしい。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)

- ニセコのスキー場4社は世界的には買収のリスクがある。そのことに危機感を持つべき。「守り（ルールづくりやコントロール）」が公共の仕事ではないのか。町としての将来的なビジョンを示し、コントロールしていくべきだと思う。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- スイスのツェルマットは、いわば宿泊者への「縛り」を効かせて、地域でお金が回る仕組みを整えている。ニセコ町でも、賃金を上げる仕組みや競争力の向上について考えていくべき。(H27.8.31 第5回ニセコ町自治創生推進本部会議)

#### <人材育成>

- グリーンビジネス、農業の世代交代をどのように実現するかが問題と感じる。解決策として、現状取り組んでいる新規就農支援は維持しながらも、そのほかの取り組みも考えてみるはいかか。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 環境の取組（プレミアム商品券）で感じたが、ニセコ町内の事業者は、見積はできるが企画・提案を苦手になっている。企画・提案のスキルを身につけられるようなセミナー開催等、地域の事業者の育成というアプローチも必要ではないか。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)

#### <情報発信>

- ニセコにはスポーツ関連産業（スポーツ合宿の受け入れ等）のポテンシャルがあるのではないか。冬季オリンピックの札幌招致の動きも見据えている。このようなビジネスチャンスにつながるキーワードが欲しいという移住希望者はいるはずであり、町の情報発信にも工夫の余地がある。(H27.6.30 第144回まちづくり町民講座「ニセコ町の自治創生の取組」)

#### <地域性>

- ニセコにいるほとんどの人は、雪（パウダースノー）を求めて来ている。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- マウンテンリゾート、夏のリゾートをどう盛り上げるかが重要。成功している海外や他地域の分析をして考えればいい。倶知安町はサンモリッツと姉妹都市を結んでいるがニセコ町に姉妹都市がないので、ニセコ町もそういうつながりを持つべきではないか。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- これからは夏のビジネスマーケットがとても大事になる。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- グリーンシーズンをどうにかするためのビジネス強化の必要がある。安定した雇用や保障がないと、どうしても人口は増えない。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- ニセコはレストランの質が良くないと聞かすが、私はとてもおいしいと思う。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)

<国外受入促進>

- ニセコがもっと有名になったら、競争相手は世界になる。世界中の人々が行ってみたいと思うような日本らしさ、ニセコらしさのグローバルポテンシャルをさらに引き上げるよう、町づくりをグローバルに考えていくべき。(H27.10.2 第 147 回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)

## 基本目標② 地方への新しいひとの流れをつくる

### <全般>

- ニセコで作るルールが世界のルールとなると意識し、世界を牽引するまちとなっていけたら良いと感じる。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 「行けば何かあるかも知れない」を言い換えたものが、ニセコのブランド力なのだと思う。(H27.8.31 第5回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- ニセコブランドの活用の重要性 (H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)

### <魅力>

- 生まれは東京で、今はニセコ町に住んでいる。ニセコ町に住んだのは、自然の豊かさ(雪)がきっかけ。実際に生活してみると、雪とは密接な関わりがあり、結構大変。だがそれでも、ペット、子育て、駐車場なども総合すると、ニセコ町は東京より住みやすい。(H27.6.30 第144回まちづくり町民講座「ニセコ町の自治創生の取組」)
- ニセコは、札幌からのドライブコースとしてちょうど良い。この距離感をどう生かせるかが課題。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 今のニセコには、明治時代の小樽のように、「行けば何かあるかも知れない」という雰囲気がある。特に若者で、仕事もないのにどうしてニセコに来たのか、というようなケースを目にする。(H27.8.31 第5回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 自分はスキーなどのアウトドアを楽しみたくてニセコにやってきて、住み続けている。親がアウトドア好きの人が多く、話題や好みなど似た人が多いので楽しい。(H27.8.27 ニセコ町幼児センターPTA 役員のみなさんとの意見交換)
- 蘭越町は30代の子育て世代が2度転入が上回った、そのときは移住サポートを手厚くしたため。だが長続きしなかった、ニセコが維持できている原因をもう少し深堀できないか。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)

### <現状・課題>

- ニセコ町は今のところ、人口の循環(若者が転入し、老人が転出する)が上手くいっているから極端に老人問題が大きくならないが、こうした人口の循環の実態では将来にわたり住み続けることができるか難しい。まちづくり基本条例の理念からずれてくるのではないか。(H27.9.16 ニセコ町議会政策案件等説明会)
- ニセコ町に住んでみて、町づくりとして進んでいるのはわかるが、そうでないところも多く、町づくりに対するスピードが遅いと感じる。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- ニセコ町のブランドイメージについて、外国人のほとんどは「ニセコ」＝「ニセコ町」と認識していない。何年か住んで、やっとニセコ町があるということを知るケースがほ

とんどだと思う。(H27. 10. 2 第 147 回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)

- 宿泊施設も高額化しており、安く泊まりたい人向けの宿泊施設がない。倶知安駅前のビジネスホテルは、安価な宿を求めて満員になっていると聞く。ニセコ駅前にビジネスホテルがあると便利ではないか。(H27. 6. 25 第 3 回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- ニセコ町は国民健康保険税が高いから、と札幌に転出した夫婦がいた。(H27. 6. 25 第 3 回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 最初(移住時)はニセコ好き、実際に定住して子育て環境が良いことに気づいている。実際に住み始めると、あそぶつくや公園もあり、市街地はコンパクトで、移住者同士のつながりもある。移住・定住を区別した議論をすれば、もっと具体的な情報が出てくると思う。(H27. 8. 31 第 5 回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 近藤地区の収穫祭は、外国人や若者を含めて知らない人ばかりで、大変賑わっていた。移住者がどんどん加わっているのだと思う。あれを目の当たりにすると、しばらくは大丈夫かなとも感じた。(H27. 8. 31 第 5 回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 何となくニセコに移住する人が多い一方、ニセコハイツの介護職員は不足している。(H27. 8. 31 第 5 回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 二地域居住、別荘や週末だけニセコ町で過ごすなどの住民票のない人の人口数の把握。(H27. 9. 24 第 146 回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 「転入元・転入先データ」の、外国からの人口移動の収支が合わない点について、外国からの転入は、外国から直接ニセコ町へ転入しているケースと思うが、転出についてはニセコ町から直接外国に戻るとは限らず、その差として表れているのではないか。例えばニセコ町から倶知安町に転出し、その後外国へ戻るケース等。よって、ニセコ町へ留まってもらうにはどうしたらいいかを考えるべきなのかと思う。(H27. 9. 24 第 146 回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 「年齢区分別、男女別純移動者数」について、子育て世代の転入が多く、20 代は転出が多い。(H27. 9. 24 第 146 回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 夏だけニセコに住む人が増えてきている。(H27. 6. 25 第 3 回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 「ニセコだから」「スキーをしたいから」等の理由で来た人は、とりあえずどこかに勤めたいという人が多い。仕事と趣味を一緒にできるような環境を求めているのでは。(H27. 9. 24 第 146 回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)

## <住宅>

- 移住定住してもらいたいが、住宅がないというのが問題。公営住宅も長寿命化計画等進めているが、もっと民間住宅を建ててもらおうと取り組んでいるところ。来年は、民間で 50 戸程度建設を検討している事業者があるほか、アパート予定地の看板等を見かけるので、全体で 70~80 戸くらい建設されるのではないかと期待している。また、現在土地調査も進めている。統計データ上、倶知安町から通勤している人も 500 人程いるはずで、住宅を増やせばそういう人に対応できるのではないか。(H27. 9. 24 第 146 回まちづくり町民講座「デ

ータで読み解くニセコの姿」)

- 現状では住宅問題が深刻。公営住宅のミスマッチ等もあるが、民間住宅が動けば、少し状況も変わってくるかも知れない。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 今後の下水道の維持管理を考えると住宅は下水道区域内に整備すべきだが、下水道区域内に宅地がない。土地開発公社を中心に、宅地の開発を進めていく必要がある。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)

#### <若者>

- 宿泊というスタイルにこだわらず、空いているホテルを転々として、旅をしながらアルバイトするようなスタイルの若者もいる。(H27.6.30 第144回まちづくり町民講座「ニセコ町の自治創生の取組」)
- 若者の多種多様なニーズを的確に把握することが重要。(H27.6.30 第144回まちづくり町民講座「ニセコ町の自治創生の取組」)
- 本日の資料説明は移住に多く触れていたが、移住者ばかりに着目するのではなく、ニセコで生まれ育った子どもの支援についても考えるべき。(H27.6.30 第144回まちづくり町民講座「ニセコ町の自治創生の取組」)
- 他の町では、転入しても2年くらいでいなくなってしまうらしいが、ニセコは長く住み続けることができているようだ。(H27.8.27 ニセコ町幼児センターPTA 役員のみなさんとの意見交換)
- 冬にスキーなどでニセコへ来ている外国人を含む若者の移住を図るべき。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 30代の移住が多い点については、自然やスキー・スノーボード・ラフティングが好きなことが移住の理由として多いのではないかと。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 移住してきた方の多くの意見として高校の頃の体験が起因していると感じており、修学旅行に対する取り組み強化してもいいのではないかと。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- ニセコ観光圏、テレワーク等の言葉についてつくった資料に併せて記載しているが、データを見てもニセコには道外出身者がけっこうおり、このような人々がより増えるようなサイクルをまわしていければいいのではないかと。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 幼児センターPTA役員との意見交換の結果は面白かった。職業も決めないで冬のニセコにあこがれて移住して、幼児センターは幼稚園／保育所が一緒でもあり便利ということが後で分かったというケースがあった。(H27.8.31 第5回ニセコ町自治創生推進本部会議)

#### <英語・外国人>

- 外国人が多いことを生かし、グローバル人材の育成に取り組むべき。子供たちには語学力を生かしてホテル等で雇用されるよう、使えるビジネス英語を教えるべき。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 外国人のことを考えると、インターナショナルスクールの存在も大きい。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)

- インターナショナルスクールがあることをニセコ町のセールスポイントにしていくべきではないのか。ニセコ町は先駆けてバイリンガルな町を目指していくことをPRしていくべき。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- 外国人のニーズを吸い上げることが重要ではないか。(町民講座などを活用してはいかが)(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 日本はまだ日本人プラスよそ者(外国人)と思っているのを強く感じる。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)

#### <居場所・コミュニティ>

- みんなニセコが好きでやってきた人たちだから親どうしが友達になりやすい雰囲気があるし、お互いに実家が遠い苦労がわかるから助け合っている。(H27.8.27 ニセコ町幼児センターPTA 役員のみなさんとの意見交換)
- 移住者でも受け入れてもらいやすいと感じる。(H27.8.27 ニセコ町幼児センターPTA 役員のみなさんとの意見交換)
- あそぶっく等もあり、移住者同士の交流の場となっているのだと思う。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 子どもの居場所の充実とあるが、年寄りの居場所の充実という観点もいれてほしい。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- オーストラリアでの海外経験では、ホテルに仕事募集の張り紙がよくしてあり、自分が泊まったところでそのまま居続けるような場所をよく目にしたが、ニセコにはそういった機会がないと感じており、宿泊機能を強化していくことも必要なのではないか。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- イギリスやアメリカで生活したが、向こうでは地域に溶け込みづらかった経験があり、コミュニティのあり方や新たな交流の場等の重要性を感じた。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)

#### <高齢者・障がい者>

- ニセコ町で生まれ育った方は、高齢になっても住み慣れた町に住み続けている。(H27.9.16 ニセコ町議会政策案件等説明会)
- 自分も移住者だが、夫婦2人が1人になったときなどを契機に転出につながるのでは。(H27.9.16 ニセコ町議会政策案件等説明会)
- 移住者同志で話をすると、高齢になったら転出することになるのではと考える方は多い。(H27.9.16 ニセコ町議会政策案件等説明会)
- 「年齢区分別、男女別純移動者数」の年齢別転出に関連して、高齢者の転出が少ないとの説明があったが、私はほとんどないのではないかとと思っている。農家を続けてきた人は自分たちの子供がそのまま農家を継いで、一緒に住むケースが多いと思うし、商店等を経営している人は前が店舗で後ろが住宅という住居形態(店舗併用住宅)が多いため、

動けるうちは働きながらそのまま住み続けるケースが定番だと思う。本当に施設に入らないといけない状態にならないと出て行かないのではないかと思う。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)

- 先日出席した研修で、家庭機能の低下が顕著で、家族一緒に食事する機会や、正月に集まる機会が減っていることを学んだ。高齢者へのアプローチについても考えるべきではないか。(H27.8.31 第5回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 障がい者に関して、カヌーやアクティビティに参加できるような機会は作れないか。ニセコでもチェアスキーや車椅子バスケットのような障がい者を広く受け入れられるような環境づくりはできないか。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 障がいのある方々が、より良いまちづくりに貢献できるのではないか。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)

#### <移住定住施策>

- 東京で全国を対象とした移住フェアに参加したが、相談者は十数名程度で予想よりも格段に少なかった。このことから、全国的にはまだまだニセコ町は知られていないのではないか。転出転入先のデータを見ると、首都圏とニセコ町の転出転入の増減はニセコ町がマイナスで、資料がまさに「首都圏での知名度不足」を示しているのではないか。役場は今後、移住についてどうあるべきか等考えていくことが必要。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 住宅不足が問題なのは事実だが、住宅ができてもしそこに入るのは近隣町村の人。となれば、都市部から地方への移住者を増やすという自治創生の目的に対応できていないことになる。本当に住宅だけが問題なのか、合わせて考えていく必要があるのではないか。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 人口を減らさないために、子供のいる家族の移住の推進を図る施策が必要。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- ニセコにどういう人を呼びたいのかターゲットを絞り込むことが重要だ。外国人や日本人でもどこの地域、どの年代等、町の方向性を決めて絞りこむことが必要なのでは。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- 「来てみたら住みやすかった」というケースを見て考えたのだが、移住と定住を区別して対策等を議論すべきではないか。住宅の確保は定住対策であり、移住はブランド力の確保が相当する。このような区別をした上で、なぜ移住したのか(潜在的な移住ニーズ)を深掘りしてはどうか。(H27.8.31 第5回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 移住前からすでにニセコのイメージを持っている人は多い。修学旅行等で実際に来たことがあるというケースもある。先日町内で受け入れたインターン生は、ニセコが分かった上で移住・定住してもらおうことが重要との報告をしてくれた。(H27.8.31 第5回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- (8月に受け入れした)インターン研修生の報告内容は、ニセコを知っている人に移住

してもらいたい、いわば移住者を選ぶようなものだった。(H27.8.31 第5回ニセコ町自治創生推進本部会議)

- 移住と定住に分けて施策を考えるとすると、定住を促進するためにどうすればよいかという議論の中で考えを深めたい。(H27.9.16 ニセコ町議会政策案件等説明会)

#### <地域内の連携>

- ニセコは棲み分けがはっきりしており、市街地地域、農村地域、環境産業地域とあるが、連携がうまくできていないのではないかと感じる。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- (ニセコ町内が観光地区とそれ以外の地区で交流や経済活動が分断している、という意見に対し) 倶知安も以前は山側・町側に分かれてしまっていたが、今は上手く連携できて一体化の方向に動けており、ニセコが打ち出そうとしているところの地域内外での共生、連携が重要と感じる。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)

#### <システムづくり・アイデア・提案>

- 実態としてニセコ町に住んでいるが、住民票を移していない方が相当数いるのではないかと。町民になる(住民票を移す)ことで何かメリットを作り出せば、積極的に住民票を移してくれるのではないかと。(H27.9.16 ニセコ町議会政策案件等説明会)
- 移住者を定住させるためには、正社員化や起業を促進する取組が重要なのではないかと。(H27.9.16 ニセコ町議会政策案件等説明会)
- 50歳以上の海外富裕層の誘致が大事だ。スキルや資産を持っている人に住民になってもらい、町に貢献してもらいたいと思う。オーストラリアはすでに取り組んでいるが、日本は遅れている。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- 農業・観光以外の職に就きたい移住希望者は多い。アイデアのある人(企業)を誘致すべき。通年雇用も大事。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)

#### <情報発信>

- ニセコにお嫁に来たい人がいるが、どうやって来ればいいのかわからない状態になってしまっている。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 移住理由は「人から聞いた」、「行ってみた」等あると思うが、いずれにせよ情報発信は重要だと感じる。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- インフォメーションセンターを作っていただきたい。観光協会もあるが、情報が足りていない。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- アメリカでは大都市から田舎へ移住しインターネットで仕事するIT事業者が増えている。田舎での充実したライフスタイルがほしいから移住する。ニセコ町もインターネットやWi-Fi環境をPRしていくべき。例えば、コンペをかけ、トップ5を2年間家賃無料にするなどして活躍してもらおうなど、ニセコ町を世界にPRしていくとさらに人が

来るはず。(H27.10.2 第 147 回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)

## <学校・教育>

- ニセコ町スタイルの子育てとして小中高一貫の観点を持っており、例えば英語ができる子の教育を考えている。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 教育については、ニセコ町ならではの幼小中高一貫の仕組みを作ろうとしている。今の子どもには、ニセコの魅力・素晴らしさを味わってもらいたい。移住者が増加しているが、ニセコ町生まれの子どもたちも大事にしていきたい。(H27.6.30 第144回まちづくり町民講座「ニセコ町の自治創生の取組」)
- 教育の面について、コミュニティースクールの可能性や幼・小・中の連携に関しては現在討議中であり、ニセコ町らしいものが出来上がっているのではないかと感じている。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 基礎学力も取り組み済みだが、より強化する必要があるのかと感じる。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- ニセコらしい教育については、英語だけではなく、確かな基礎学力の養成についても考えたほうが良いのではないかと。100マス計算等で成功している自治体もある。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 環境学習、体験学習、他地域の小中学生との交流により、ニセコのよさを知って育っていくことが重要ではないか。結果的にUターンとかを促進できるのではないかと。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 普通高校は倶知安高校に行くし、(通学の交通手段などで)そこまで不便ではないので、ニセコ高校を普通高校にするのではなく、特徴化していくのがいいのではないかと。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- (町村立高校関係者の集まりに参加して)高校づくりをまちの柱にしているところがかなりあった、人口減少のなかで外国人が多く入ってくる中で観光面の強化(スキー・ラフティングのガイドなどが雇用を見つけれられる環境づくり等)はどうか。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 島根県の海士町、長野県の白馬高校等は観光に特化してつくり、関心の高い生徒を集めている。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- ニセコらしい教育内容について、ニセコはスキーというイメージがあるが、スキーの授業が少なく、そこを強化してもいいのではないかと。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 観光学やホテル学(ホスピタリティ)を学べる大学があればいいのではないかと。世界的には地方でも良い町には良い大学がある。観光業に携わる外国人が多いというニセコの特徴を生かして観光学科の大学を作れば良い。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)

## <人材育成>

- いかに転出を抑えるかを考える必要はないのではないか。20代で転出が増えているのは悪いと感じておらず、むしろ地域しか知らない人間が果たして将来ニセコのためになるのかと感じている。海外を含めた外の世界を知って、のちのちニセコに戻ってくるようなシビックプライドを持つ人材を中長期の視野で育成していく必要があるのではないか。  
(H27.8.4第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 若者を町に残るようにしたいという話だが、ここに住めというだけでなく、町にプライドをもってもらうことが大事。(H27.10.2第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- (ニセコ町出身者のUターン推進について)自分が小さい頃に魅力を感じた町へ戻ってきて活躍するためには、住んでいる場所でいい学校に行くことができれば良い。(H27.10.2第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- ニセコらしい教育について、夏のはたらき場では平均年齢60代で自分だけ30代というところがよくある。この仕事が代々受け継がれていくような環境ができていないため、その環境改善という観点も考えられるのではないかと。(H27.8.4第1回ニセコ町自治創生協議会)
- ニセコの子供たちへ、(学校では教えてくれない)将来の仕事、住宅や配偶者を得る能力について、意味を伝えていくと良い。(H27.9.24第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- インターネットを活用して、自分達で考えることを促すような学校教育にしていき、更にはニセコの未来を子どもが真剣に考えていけるような教育環境ができれば良いと感じる。(H27.8.4第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 転入者が多いという点で、転入者に対する教育などをしていく必要があるのではないかと。(H27.8.4第1回ニセコ町自治創生協議会)

## 基本目標③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

### <全般>

- 都会は、お金を使わせることが多い。都会で暮らすにはお金が必要だけど、ニセコはお金がなくともそれなりに暮らせるところが良いところだと思う。(H27.8.27 ニセコ町幼児センターPTA 役員のみなさんとの意見交換)
- 「里山資本主義」の書籍を買って読んだ。全国的に出生率が高いところの特徴等分析されており、条件が4項目載っている。これらをニセコに当てはめてどうなのか考えていくべきだと思う。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- まだ子供を生まずに転入してきた人には産婦人科がない等気になる部分はあると思う。若い世代の女性がどう考えているのか、何を求めているのか知りたいと思う。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 子育てについて意見を言える親が増えている。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 町外の幼稚園へ通園させている母親等、母親との懇談会により情報を収集していきたい。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)

### <子育て環境>

- あそぶっくやプール、幼児センター、公園等歩いて行ける距離にまとまっているところが子育てしやすいと感じている。都会ではありえない。(H27.8.27 ニセコ町幼児センターPTA 役員のみなさんとの意見交換)
- ニセコ町の子育て環境がいいという人は多い。学童保育、幼児センターも増築が決まっているし、その後も順次小学校、中学校も補修する予定。きちんと取り組みがされると認めてもらっているのでは。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 女性視点が重要と考えており、結婚・出産・子育て環境の充実がますます重要になるのではないかと。ニセコ町は学童保育所や幼児センターの整備を進めているが、全国的な人口減少の中、この分野はますます競合が激しくなると読んでいる。(H27.7.22 ニセコ町議会所管事務調査)
- 幼保一元化施設である幼児センターの保育内容が、今の子育て世代の保護者には評価が高い。子育て世代の転入+保育教育の充実が人口増加や定住促進につながる要因になると思う。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 幼保一元化されているのが便利。2人目が生まれると、保育所であれば一旦退所して幼稚園に入れ直したりする必要があるが、幼児センターは一元化されているので、時間帯が変わるだけで、それまでと同じ環境で過ごすことができるのがとても良い。(H27.8.27 ニセコ町幼児センターPTA 役員のみなさんとの意見交換)
- 幼児センターは長時間・短時間という差だけで、幼稚園だから、とか保育所だからとかはっきりと分かれていないところが良い。(H27.8.27 ニセコ町幼児センターPTA 役員のみなさんとの意見交換)

- 住民にとっては、ニセコ町のブランドイメージよりも、他の町より保育が充実している等の方が重要だ。(H27.10.2第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- ニセコは自然が身近にたくさんあるので、都会のように公園や遊具で遊ぶのではなく、自然の中で植物や虫たちで遊べるのはありがたいことと思っている。(H27.8.27ニセコ町幼児センターPTA役員のみなさんとの意見交換)
- ニセコ町は小さい子が気軽に遊べる場所が少ない。昔は幼児センター裏で遊ばせられたが、今は通り抜けができないし、草刈りの頻度が少なくなったため、小さい子供は近寄らせられない。整備してフットパスとして活用すれば、小さい子供だけでなく高齢者も楽しめるのではないか。(H27.6.25第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 親がスキーをするから、子どもがスキーをするのではなく、様々な可能性があることを知ることの出来る環境とできると良いのではないか。(H27.8.4第1回ニセコ町自治創生協議会)

#### <子育て支援>

- 人口を減らさないために、出生率を引き上げる施策が必要 (H27.9.24第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 最近出生率が高い理由としては、町の助成対象となる妊産婦検診とエコー検診を計20回分に増やしたことや、乳幼児健診にも力を入れていることが要因ではないか。最新の合計特殊出生率は現在1.75くらいだと思う。(H27.9.24第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 自分の子育ての場合、周りの支援をたくさん受けられたため、苦労は少ないと感じている。(H27.6.25第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)

#### <就学援助>

- 子供ができて、一番大事なのはやはり学校だと思う。インターナショナルスクールはお金がかかるので、補助制度を作ってほしい。(H27.10.2第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- 自分の子育ての場合、高校から札幌の大学へ進学したとき(学費+生活費)の費用負担が一番大きかった。札幌は通学できる距離でもないため、家賃もかかる。(H27.6.25第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 幼児期の支援ばかりに着目するのではなく、大学進学時の支援も考えるべきではないか。(H27.6.25第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)

#### <転出入>

- 子供が生まれて、ニセコ町に移住先を選んだ理由はたくさんあるが、ニセコ町の方がウエルカムな雰囲気があると感じている。(H27.10.2第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- 最近、ニセコに縁もゆかりもない人が、離婚等して子どもを連れて移住するケースが増

えている。独自のネットワークで、ニセコは子育てしやすいという評判が回っているのかも知れない。子連れ・大家族でやってくる転入者も増えているように感じている。

(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)

- 年齢区分別の住民移動の表で、0-4歳人口は転入も多いが転出も多い。ニセコ生まれの子どもと転入した子どもで、何らか傾向が異なることも考えられる。転入・転出の理由や出生率の上昇の要因は分析されているのか。(H27.9.16 ニセコ町議会政策案件等説明会)
- 子育て世代の人が子供を連れて転入していると思われるが、転入の理由、居住先(寮なのか、公営住宅なのか、建てるのか等)や就職先等、詳しいデータはないか。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 若い世帯が倶知安町から転入している一因としては、住宅家賃の安さが影響している。(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)

#### <雇用環境>

- もう一人産みたい!と思ってもらうために必要なこと=給料が上がること。(H27.8.27 ニセコ町幼児センターPTA 役員のみなさんとの意見交換)
- 季節雇用をされてニセコ町にやって来た若者は、①家庭を持って正社員として安定する、②起業する、③不安定な暮らしに耐えられず転出する、の3パターンに分かれるように見受けられる。(H27.9.16 ニセコ町議会政策案件等説明会)
- 就職時は、子どもたちはニセコに戻りたがったが、ニセコに雇用がないため諦めてしまい、結局、町外で就職せざるを得なかった。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 仕事があるが賃金が低いので子どもを作れないケースもあると聞く。通年雇用は、収入を安定化するという観点から重要。(H27.8.31 第5回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 夏と冬の働く場が変わってしまうのが地域性ではあるが、子どもが生まれることを考えると、一定のところで安定した収入があるほうがありがたい。子どもが生まれてから女性が働く場がなかなかないし、生まれてから子どもを預ける場も順番待ちのところもあり、更なる充実があると良い。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)

#### <つながり>

- おひさま(子育て支援センター)が充実している点。自分もニセコに来たとき知り合いが全くなかった。おひさまに行けば、子供も同じ年頃の子供と遊んだりできるし、親どうしの「横のつながり」ができた。つながりができて、ちょっと預かって!と気軽に子供を預けあえるようになった。(H27.8.27 ニセコ町幼児センターPTA 役員のみなさんとの意見交換)
- ニセコ町は町の規模がちょうど良く、子供の顔がよく見える。よその子も、どこの子というのがちゃんとわかっているところが良い。(H27.8.27 ニセコ町幼児センターPTA 役員のみなさんとの意見交換)
- 近隣の町では、町内に3つの幼稚園があるが、小学校にあがるときに幼稚園ごとの派閥になってしまうが、ニセコ町は一元化しているので派閥がないのが良い。(H27.8.27 ニセコ町)

幼児センターPTA 役員のみなさんとの意見交換)

#### <イクメン>

- お父さんの育児参加率が高い。お父さんが子供を連れて公園にやって来ても、すぐにお母さん達の輪に入れてもらえ、知り合いになることができる。(H27. 8. 27 ニセコ町幼児センターPTA 役員のみなさんとの意見交換)
- お父さんの協力が多い町だと思う。行事参加や送り迎えでもお父さんをよく見かける。(H27. 8. 27 ニセコ町幼児センターPTA 役員のみなさんとの意見交換)

#### <学校教育・食育>

- ニセコ町内の公立学校の学力レベルの評判はどうなのだろうか。(H27. 10. 2 第 147 回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- 若い母親との懇親会の中で、子どもの食の安心・安全に関する興味は高いものの、お菓子の食べさせすぎ等、子どもの食の管理ができていない印象を受けた。役場の栄養士の職員と協力して、親に対する食育教室を行うことも考えられる。(H27. 6. 25 第 3 回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 特にシングルマザーについては食育に拘る人が多いと感じており、そういうひとが安心して預けられるような場所があるといい。(H27. 8. 4 第 1 回ニセコ町自治創生協議会)

## 基本目標④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

### <全般>

- 人口減少社会の中で、奪い合いではなく、少なくなっても地域が自立することが必要。

(H27. 9. 16 ニセコ町議会政策案件等説明会)

- 5～10年プランをつくるといい。ニセコ町は5年後、10年後こうなるというプランを示すことができれば、もっと人が入ってくると思う。(H27. 10. 2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)

### <広域的な発想>

- 役場の意見にもあるが、5,000人規模での視点でいいのか、またニセコ町だけで解決できない面もでてくるのではないか。広域的な発想というのは必要になってくるのではないか。(H27. 8. 4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- ニセコ町のみならず、ニセコ地域として視野を持ち、互いに高めあうような連携を図れると良いのではないか。(H27. 8. 4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- ニセコ町単独で議論を交わすのも大事だが、ニセコで足りないものは広域的に見て助け合うという発想があると選択肢が広がっていくのではないか。(H27. 8. 4 第1回ニセコ町自治創生協議会)
- 学生を使ってニセコの夏と冬の観光に関するアンケートをした結果、夏の観光では、圧倒的に1泊2日の短期滞在が多く、小樽・札幌に加えて、函館に行く、函館から来るのが多いことがわかった、函館とニセコといった観点での施策もありかと感じる。(H27. 8. 4 第1回ニセコ町自治創生協議会)

### <公共施設>

- 学校は倶知安町にあればいいと思う。ニセコ町に住んで通学すれば良い。周りの町村の力を借りるべき。広域的な視点でニセコ町は町を良くしていくべきではないか。(H27. 10. 2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- 公共施設を充実させることが必要ではないか。ニセコ町在住で倶知安町で仕事をしている人がほとんど。ニセコ町からヒラフ地区（倶知安町）へ移住させないためにもニセコ町として公共施設を充実させることが大事。ニセコ町は、世界の、山の麓にある町等の例を参考とし、できることを取り入れて行くべき。カナダのマウンテンリゾートでは、プールやダイビング等の運動プラス教育の施設が充実している。(H27. 10. 2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- 「町に住むためにプールを作る」＝「町に住み続ける理由」にはならないと思う。(H27. 10. 2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)

- ニセコ町は、日本の他の田舎町と比較すれば、見た目の魅力はあると思う。町の良さを増すためには良い公共施設が必要だと思う。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)

#### <高齢者>

- 2040年頃に高齢化率が(現在の24%から)38%に上がると見込まれている。医療や介護、雪の問題など、高齢者の問題が深刻になるのではないかと危惧している。(H27.9.16 ニセコ町議会政策案件等説明会)
- お年寄りが長生きすることも必要で予防医療の充実や子供との触れ合いや学びの場が必要(H27.9.24 第146回まちづくり町民講座「データで読み解くニセコの姿」)
- 高齢になるとニセコ町を離れてしまう結果、高齢者数が3割程度に保たれている。高齢者に冷たくなならないよう表現に配慮が必要だが、バランスとしてちょうど良いかも知れない。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)

#### <生活>

- 雪だけは対応が大変だが、雪以外は、高齢者も意外と暮らしやすいのではないかと。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- コンビニの品揃えは良くなっているが、ちょっとした買い物ができるお店が減った。ニセコ町内のスーパーの定休日が日曜なのが不便。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- 近所との関係が希薄になって暮らしにくくなっているケースも考えられる。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)

#### <交通アクセス>

- 病院や買い物は広域的に見れば確保できており、今のところ不便とは感じていない。(H27.7.22 ニセコ町議会所管事務調査)
- ニセコエリア外から来るための交通アクセスで、倶知安町からニセコ町まで来るアクセスが特に悪い。他町村への通院等ではバスや電車の時間的なアクセスが悪すぎる。また、スタッフを確保しようとしても、住まいから職場までのアクセスが悪く、バス等の通勤手段がない。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- 住まいから職場までのアクセスが悪く、バス等の通勤手段がない。(H27.10.2 第147回まちづくり町民講座「外国人と考えるニセコの姿」)
- 医療・買い物は、札幌や小樽でも大規模店まで20~30分かかる。同じように気軽に倶知安町や蘭越町に行ければ、ニセコ町も快適に居住できることになる。今はバスの本数が少なく、JRとバスのタイミングが揃っていて不便。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)
- ニセコバスと道南バスでも、乗客の多い時間帯にタイミングが重なり、競合してしまっている模様。(H27.6.25 第3回ニセコ町自治創生推進本部会議)

## その他

### <環境>

- 「環境モデル都市」であることはニセコ町の特徴。総合計画の基本理念も「環境創造都市ニセコ」。環境はニセコ町の自治創生でもポイントになるのではないかと。学生時代に東京に住み、ニセコ町に戻ってきたとき、ニセコ町の景観の素晴らしさを改めて実感した。他の移住者にも、ニセコ町の印象を教えてもらいたい。(H27.6.30 第144回まちづくり町民講座「ニセコ町の自治創生の取組」)
- ニセコが恵まれている点である、再生可能エネルギーの潜在力を活かさないか。温度の関係上、温泉発電とはいかないが、温泉熱を利用した様々なビジネスも可能である。(H27.8.4 第1回ニセコ町自治創生協議会)